

# 川崎市宮前区社会福祉協議会 令和4年度 事業報告

## ◆重点事業◆

### 1 地域福祉活動拠点の調査及び開拓

宮前区では区内に50を超えるコミュニティカフェがあり地域住民の集う拠点としての役割を担っていますが、令和4年度についても引き続き、新型コロナウイルス感染予防に伴い、区内の多くのカフェが活動を自粛せざるを得ない状況となりました。区社協が事務局を勤めている「みやまえカフェ連絡会」においては、全体連絡会を2回開催し、Zoomなどのネットワークを活用したカフェの事例発表などを実施した他、区内の各カフェに向けて、コロナ禍での開催状況の実態調査について報告しました。また、年末たすけあい募金を原資とした、福祉団体育成支援金を活用した新たなカフェ創設についての相談対応も行いました。

### 2 区社会福祉協議会のPR活動の強化

コロナ禍で休止していた町内会回覧板の再開を受けて、広報誌「みやまえの福祉」の回覧を再開しました。広報誌面では、社会的マイノリティの方々への理解や受容に向けた「LGBTQ」に関する啓蒙記事や、各地区社協で行っている子育て支援についての記事を掲載しました。

また、ホームページについては、新型コロナウイルス感染症による特例貸付事業の期間延長やその後の受付期間終了に伴い、随時現状の手続きに関する情報を更新・発信しました。

### 3 相談機能の強化・充実

令和4年度も引き続き、新型コロナウイルスの影響による退職等により、収入が減少した方を対象とした緊急小口資金及び総合支援資金特例貸付の申請受付を9月末まで実施し、その相談対応を行いました。特例貸付終了後は、他機関で行っている支援制度の説明や貸付金の償還に関する相談対応を行いました。

また、日常的に電話、来所での相談対応について、川崎市社協内で「ふくし相談」と名称を統一し、相談内容の統計を整理することで、継続的な相談機能の充実と体制の見直しをはかりました。

### 4 新しい生活様式に即した事業の実施

新型コロナウイルスの感染状況が改善しない中、会議や研修等において、対面での開催が困難な状態が続いておりました。令和3年度地区社協役員を対象としたZoomに関する基本的な知識や体験を行う研修会を実施しましたが、令和4年度は、ボランティア団体や区民を対象としたZoom研修を、区内3箇所で開催し、対面形式での開催に限らず、ZOOM等のツールを使用した様々な形の事業のあり方を検討・実施しました。

## 事業報告の内容

### 宮前区社会福祉協議会 事業費【29,501千円】

【サービス区分事業活動支出 24,221千円】

【共同募金配分金 5,280千円】

#### 1 宮前区社会福祉協議会運営事業

##### (1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ・ 常任委員会の開催 3回
- ・ 運営協議会の開催 1回

##### (2) 正副会長会議の開催

- ・ 正副会長会議の開催 1回

##### (3) 種別会議の開催

- ・ 種別会議の開催 3回 ※第9種、第10種は同日同時間帯にて開催。

##### (4) 賛助会員（協賛会員）の募集

社会福祉協議会活動への理解促進と活動の財政基盤を支える賛助会員増強を図るため、地区社会福祉協議会での説明会を開催の上協力を依頼、賛助会員の増加に努め、自主財源確保を図るとともに、加入者に区社協広報誌を送付する等による区社協事業の周知を行った。

##### (5) 各委員会の開催

ボランティア活動振興センター運営委員会、年末たすけあい運動実施委員会、「みやまへの福祉」編集委員会、みやまえ福祉フェスティバル実行委員会等の各種委員会を随時開催した。

#### 2 調査・研究事業

##### (1) 第4期地域福祉活動計画の進行管理

令和2年度に策定した計画について、常任委員会・運営協議会等で進捗状況報告を行った。

##### (2) 地域福祉活動拠点の調査・開拓

みやまえカフェ連絡会について、新型コロナウイルス感染拡大のため、全体会(2回)・役員会(3回)と実態調査を行った。

#### 3 研修事業

##### (1) 区社協常任委員研修会の開催

常任委員会研修会を6月27日に「特別自治市制度についての学習会」を宮前区全町内・自治会連合会と共催で開催した。

## (2) 区社協会員研修会（地域福祉懇談会）の開催

令和4年度については3月頃の開催を予定していたが、現会員の規定に関する確認および所属種別の整理・検討に伴う会員への案内等の手続きが必要であったことから、開催時期の見直しを図った結果、年度内での地域懇談会の開催は見送りとした。

## (3) 地域住民の主体的な福祉活動促進のための福祉講座の開催

令和4年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、担当地区であった有馬鷺沼地区社会福祉協議会の講座が中止となった。

# 4 企画・広報事業

## (1) 第21回 みやまえ福祉フェスティバルの開催

例年、お子さんからご高齢の方まで幅広い年代層の方にご来場いただき、地域とのつながりの強化や社協活動への理解促進を図る「みやまえ福祉フェスティバル」に関し、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、年度初めの実行委員会内での協議を経て、前年度同様、開催規模を縮小し、当日の参加にあたっては、事前の申込制による開催とした。地域福祉に多大なご尽力をいただいた方の功績を称えるための表彰式典および福祉の普及、理解を目的として、宮前区在住のハンセン病患者であり、当会の前・理事を務めていただいた、石山 春平氏と奥様を主演としたドキュメンタリー作品「マイ・ラブ 6つの愛の物語〈日本篇〉」の上映及び、ご夫婦と監督をお呼びしてトークショーを行った。

## (2) 広報誌「みやまえの福祉及びボランティア活動情報」の発行（全4回発行）

平成29年度から、「宮前・ボランティア活動情報」と一本化し、地域の福祉情報等を総合的に掲載し、区内の福祉活動の啓発に努めている。前年度までは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、町内会自治会における回覧が中止されていたため、町内会自治会への広報誌配布を中止していたが、今年度、1月1日発行号（第88号）より、区役所担当課、町内会自治会長との相談の上、町内会自治会回覧分の広報誌の送付を再開し、改めて地域に向けた福祉関連情報の発信に努めることができた。

内容としては、事業計画に掲げる「認め合う意識づくり」の目標に向けた、LGBTQに関する紹介や地区社協が実施する子育て支援の紹介等の記事を掲載し、現状における地域福祉活動の周知と理解の促進を目的に発行した（発行部数 6月1日及び9月1日発行号 1,200部、1月1日及び3月1日号 8,200部、フルカラー印刷。主な配布先 関係機関・町内会・自治会）

## (3) ホームページによる広報活動

ホームページを活用し、区社協の事業や講座の紹介、ボランティア情報の発信等地域の福祉情報を周知することにより、福祉啓発の充実を図った。また、新型コロナウイルス感染症に起因する生活困窮者に向けた生活福祉資金特例貸付に関し、令和4年9月末での申請期間の終了や、償還に関する相談窓口等の案内など、随時ホームページによる情報発信を行い、貸付の希望者や申請者に向けた適切かつ迅速な情報発信を図った。

#### (4) 宮前区社会福祉協議会オリジナルキャラクターによるPR活動

本会オリジナルキャラクター宮太郎のお供として活動する馬（馬絹・有馬・東有馬）を「マリーヌ」、鷺（鷺沼）を「ヌーマ」、犬（犬蔵）を「ヌーク」として、区内地名になぞられた名前をつけ、より地域に密着した親しみやすいキャラクターとして、社協活動のPRを行った。

#### (5) 地域情報誌や他機関の情報サイト等を活用した積極的な区社協事業PR

タウンニュースに情報提供を行うなど、区社協活動のPRを行った。

#### (6) SNSを活用した情報発信と情報提供の在り方を検討

令和4年度途中からの町内会・自治会の回覧は再開したものの、引き続き新しい幅広い世代や対象に向けた情報発信の在り方に関する手段として、SNSの活用方法に関する検討を行った。

## 5 地域福祉活動事業

### (1) 地区社会福祉協議会事業への支援・協力

区社協職員が地区ごとに担当を持ち、地区社協事業への支援を実施した。

### (2) 子育て支援事業の実施

#### ① 子育て支援関係者連絡会への参加、協力

宮前区内の子育て支援関係者や子育て当事者グループが連携を図り、安心して子育てできる地域づくりを推進するために、子育て支援関係者連絡会に参加し、転入世帯を支援するWELCOME！みやまえキャンペーン、うえるかむクラス、子育てグループ交流会、サロン・広場等交流会の実施に協力した。前年度と比べ新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、中止となる事業は少なく、Zoomを利用した事業展開を行う等、新たな形で関係機関や団体等と協力し事業に取り組んだ。

#### ② ふれあい動物コーナー実施

みやまえ子育てフェスタにて、例年未就学児世帯を中心とした親子のふれあいを目的に、移動動物園を実施していたが、令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため移動動物園は中止としたが、一部内容を変更し規模を縮小しての開催となったことから、その他の運営部分で協力を行った。

### (3) 移送サービス事業

福祉の向上を図ることを目的に、高齢者や身体障がい者等、既存の交通機関の利用が困難な方に対し、運転ボランティアの方々のご協力のもと、移送サービス用車両（車いす用スロープ付き車両）2台を活用した移動支援を実施していたが、令和4年度の途中において、所有車両2台ともに車椅子搭乗用のスロープの故障により、運行を休止としていた。

その後、代替車両の購入を含めたサービスの提供に関し、役員会等で検討を重ねた結果、令和4年度をもってサービスを終了することとし、利用者への説明、年会費の返金を行うとともに、次年度以降、新たな事業展開に関し、引き続き検討を重ねていくこととした。

令和4年度移送サービス実施状況

移送ボランティア：12名

利用登録者：7名（内訳：高齢者（要介護）：1名・（要支援）：1名、身体障がい者：4名、  
その他（内部障害）：1名

#### （４）車いす貸出事業

怪我などに伴い一時的に歩行が困難となった方などを対象に、短期的かつ単発的な使用に限り、無料で利用いただくことができる車いす貸出事業を実施した。

保有車両については、自走式、介助式のそれぞれのタイプを揃え、希望に応じて、貸出を行っていたが、車両の老朽化に伴い、保有していた20台のうち、12台を買い替えるとともに、要望が多かった子ども用車いすを新たに購入し、より多様なニーズに応えることができる体制づくりを図った。

貸出のべ台数 151台

#### （５）買い物支援サービス事業

福祉の向上を図ることを目的に、宮前区社協会員の社会福祉法人施設の車両を使用し、運転・添乗ボランティアの協力のもと新型コロナウイルスの感染状況を見ながら運行した。

協力法人施設：社会福祉法人セイワ 介護老人福祉施設鷺ヶ峯

社会福祉法人アピエ 宮前フレンズ

社会福祉法人子の神福祉会 特別養護老人ホーム富士見プラザ

#### （６）医療・保健・福祉との連携

##### ①川崎市地域ケア連絡会との連携

相談及び各種サービスを実施している機関が連携し、かつ適切なサービスの提供につながるよう、地域の要援護高齢者の福祉の向上を図ることを目的として設置されている地域ケア連絡会に運営委員として連携した。

##### ②徘徊高齢者SOSネットワークシステムへの協力

徘徊の可能性のある高齢者の情報を事前に登録することにより、徘徊発生時の情報を関係機関に伝達し、徘徊者発見の手助けを目的とする「みやまえSOSネットワーク」に協力をした。

##### ③障害者自立支援協議会との連携

区内障害者施設や関係機関職員で構成し、障害者の自立生活及びその周辺理解について協議し実践をすることを目的としており、その一員として連携を図った。

#### （７）在宅介護者支援事業

日頃の悩みや疑問を話し合い、心身のリフレッシュ・仲間作りを目的に開催している。「在宅介護者のつどい」への情報提供並びに他機関や地域に向けた広報活動の支援を行った。

## 6 団体等助成事業

地区社会福祉協議会をはじめ、福祉団体や当事者団体の行う自主的な福祉活動への助成を通じて、福祉活動、ボランティア活動の育成支援を行った。

### (1) ふれあい活動支援事業（会食会、配食サービス、デイサービス活動）への助成

### (2) 地域の福祉関係団体への活動助成

宮前区社会を明るくする運動実施委員会

宮前区子ども会連合会

## 7 共同募金配分金事業

### (1) 共同募金運動に協力

神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会の行う共同募金運動に、各地区社会福祉協議会やボランティア団体、各関係機関等のさまざまな方の協力を得て、一般募金（赤い羽根）、年末たすけあい募金合わせて14,563,267円の実績をあげることができた。

また、令和4年度は、令和3年度において、12月1日より4日間実施した、駅頭を使用して募金呼びかけを行う、「街頭募金活動」に関し、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、引き続き感染防止対策を講じつつ、10月1日から7日までの計7日間で実施し、全32団体に参加協力をいただき、募金を行うことができた。

### (2) 年末たすけあい見舞金配分事業

#### ① 年末たすけあい見舞金配布

年末たすけあい募金を財源とした、年末たすけあい見舞金に関し、今年度申請いただいた配布対象の方、286名の方に配布を行った。（1名あたり5,000円）

#### ② 福祉活動団体育成支援及び活動助成

年末たすけあい運動事業の一環として、宮前区内で福祉サービスを行なう11団体に向けて、総額 780,000円の助成金を交付した。

#### ③ 当会が実施する各種事業において、配分金を活用した。

## 8 福祉パル管理運営事業

川崎市社会福祉協議会を通じて川崎市より福祉パルみやまへの管理運営業務を受託し、地域福祉活動の拠点施設としての運営を図った。

### (1) 研修室およびフリースペースの貸し出し

研修室利用件数 418件 2,889人 / フリースペース利用件数26件 108人

### (2) チラシ・ポスター等の掲示による情報提供

(3) 印刷機等地域活動に必要な機器、機材の貸し出し

## 9 生活福祉資金貸付事務受託事業

神奈川県社会福祉協議会より生活福祉資金制度の相談、貸付業務を受託し、低所得世帯・障害者世帯等の自立支援を図るための、貸付・償還業務を行った。

### (1) 相談件数

3,413件（特例貸付含む）

### (2) 新規貸し付け決定数

22件、13,975,000円（特例貸付含まず）

### (3) 償還についての相談

滞納世帯の状況を確認し、今後の援助指導および償還についての相談を行った。

### (4) 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた特例貸付の実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、収入減少があった世帯の向けの特例の緊急小口資金及び総合支援資金の貸付を行った。（申請件数287件、申請額101,750,000円）

## 10 ボランティア活動振興事業

相談・情報提供・連絡調整・啓発・人材養成を行い、宮前区のボランティア活動の振興を図った。

### (1) ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

運営委員会 3回開催

### (2) ボランティアに関する相談・情報提供の実施

ボランティア相談に関する、ボランティア専門相談員を週2回配置し、ボランティア活動調整及び情報提供を迅速かつ多角的な視点を持って取り組んだ。

ボランティア活動希望30件、ボランティア依頼28件

### (3) 「宮前・ボランティア活動情報」の発行

広報誌「みやまえの福祉」と一本化し、年4回、団体、施設、個人からのボランティア相談・依頼のほか、災害ボランティアや福祉情報を掲載し、区内のボランティア活動の啓発に努めた。

### (4) 福祉教育事業の推進

①小中学校の福祉教育授業への協力

(ア)区内小学校・中学校の福祉教育授業へ車いす等の貸出

(イ)講師の紹介

②関係施設・機関等の研修への協力

(ア) 区内関係施設・機関の研修への車いす等の貸出

(5) 福祉啓発、ボランティア人材発掘を目的とした講座・セミナー等の開催

①Zoomの使い方研修※同内容を3会場に分けて実施

日 時	会 場	内 容	参加者数
R5. 2. 9(木)	野川老人いこいの家	<b>【講義】</b> Zoomの特徴、準備、環境の設定等  <b>【体験】</b> ミーティング情報の入手・参加、音と映像の設定等  <b>《講師》</b> みやまえエコー	7名
R5. 2. 22(水)	福祉パルみやまえ		11名
R5. 3. 8(水)	向丘出張所		10名

②ボッチャ体験教室※2日間コース

日 時	会 場	内 容	参加者数
第1日目 R5. 2. 13(月)	宮前市民館	<b>【講義】</b> ・ボッチャの基本知識、ルール等  <b>【体験】</b> ・チーム対抗戦等  <b>《講師》</b> 障がい者福祉施設 れいんぼう川崎職員	14名
第2日目 R5. 2. 27(月)			11名

(6) 夏休みの福祉体験講座「チャレボラ2022」の開催

①視覚障がい者へのお手伝い！声掛け誘導体験

日 時	会 場	協 力	参加者数
R4. 7. 27 (水)	福祉パルみやまえ～ 宮崎台駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白杖ユーザー</li> <li>・ガイドヘルパー</li> <li>・PCサポートの会</li> </ul>	4名

②福祉の目でまちを点検！車いす介助体験【福祉マップ作り】

日 時	会 場	協 力	参加者数
R4. 7. 29 (金)	福祉パルみやまえ～ 宮崎台駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすユーザー</li> <li>・NPO法人川崎介護福祉士会</li> </ul>	4名



③障がい者施設でボランティア！ボッチャを通じて利用者さんと交流！！

日 時	会 場	協 力	参加者数
R4. 8. 5 (金)	福祉パルみやまえ	・れいんぼう川崎 ・中部日中活動センター	6名

(7) ボランティア活動等保険の取扱い

ボランティア個人またはボランティアグループなどが加入申込人となり、全国社会福祉協議会が一括して損害保険会社と締結する団体契約の窓口業務を行った。

令和4年度保険加入件数459件

## 1 1 宮前区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 958件 (初回相談42件、継続相談916件)

(※令和3年度相談件数 1,092件／初回相談39件、継続相談1,053件)

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 278件 (初回相談130件、継続相談148件)

## 1 2 老人いこいの家運営等事業

指定管理者として宮前区内5箇所の老人いこいの家（長寿ケアホーム）の管理・運営を行った。

(1) 老人いこいの家運営委員会の開催

運営委員会開催数 (5館) 10回

(2) 管理人研修会

2回実施、22名参加

(3) 老人いこいの家年間利用者数の状況

年間利用者数 (5館) 37,350人

(4) 教養講座の実施

教養講座実施回数、参加者数 (5館) 延べ107回、1,142人

(5) ミニデイケア事業の開催状況 (3ヶ所)

参加人数 計 126人 ・ ボランティア数 計 157人)

(6) 夜間・休日等施設開放事業 (1ヶ所)

利用人数 計 801人

## 1 3 公益事業

### (1) 高齢者外出支援事業（高齢者フリーパス交付）の実施

高齢者の社会活動への参加を促進し、福祉の増進を図ることを目的に川崎市高齢者フリーパスを交付した。（対象者：70歳以上の方に「川崎市高齢者フリーパス」を交付（有料）し、バスに乗るときにフリーパスを提示して乗車）

令和4年度においては、今まで紙面にて発行していたフリーパスに関し、10月よりICカードへの切り換えを図ることとなり、川崎市との連携のもと、窓口における手続き案内、周知を行った。郵便局等、手続きにあたっての窓口の増設に伴い、市との協議の結果、年度内をもって取り扱いが終了することになったことから、対象者に不便が生じないように、広報誌による案内やHPへの掲載、窓口でのチラシの配布を行い、移行手続きが滞りなく終わるよう、配慮に努めた

令和4年度交付枚数3,166枚

## 1 4 災害活動関連事業

### (1) 災害ボランティア活動の啓発

令和4年度については宮前区で実施した総合防災訓練に参加し、災害ボランティアセンターの設置訓練と災害ボランティア活動に関する啓発を行った。

### (2) 災害対策・事業関連における関係機関との連携強化

宮前区地域防災連絡会議全体会議などに参加した。宮前区で実施した総合防災訓練に際して、宮前区で災害ボランティアセンターが設置される予定の宮前市民館と複数回打合せをし、情報共有を行った。

## 1 5 団体事務

### (1) 神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会への協力（再掲）

### (2) 宮前区民生委員児童委員協議会

### (3) みやまえカフェ連絡会「まいCaféみ〜や」

新型コロナウイルス感染拡大のため、役員会（2回）と実態調査を行った。

### (4) 関係団体の事務協力

## 1 6 その他

### (1) 宮前区賀詞交換会の共催

令和5年賀詞交歓会は新型コロナウイルス感染防止の観点から内容を変更し、管弦四重奏演奏を聴く会として実施した。

(2) 関係機関主催の会議、事業への参加、協力

(3) 川崎市社会福祉協議会の事業への協力

(4) その他、本会の目的を達成するために必要な事業の実施

## 参考

### 17 老人福祉センター管理経営事業（指定管理事業）

年間利用者数状況

(単位：人)

利用者数		合 計	入浴者数	健康相談		生活相談
団 体	個 人			医 師	保健師等	
6,800	17,131	23,931	3,364	29	157	92